

進路だより

公立高校入試の検査問題から普段の学習を考えよう

高校入試では、小学校から中学校までに学習した内容が出題されます。公立高校の学力検査問題は、基礎的・基本的な事項及びこれらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力が検査できるように出題されています。最近では、これからの時代に必要とされる読解力と表現力を意識した出題も行われています。下の表は、特に読解力と表現力について、各教科の問題を通して検査されている力を示しています。

教科	問題を通して検査されている力
教科全般	対話文や資料の中に提示された解決の条件や解答に求められる様々な情報を読み取ったり、複数の異なる資料を活用したりしながら思考判断したことを、自分の言葉で分かりやすく伝える（アウトプットする）力
国語	国語を適切に表現し正確に理解する力をみるとともに、伝え合う力や思考力、および想像力を総合的にみる問題を出題し、作文問題では、複数の異なる資料をもとに自分の考えを構築して論述する力
社会	地理・歴史・公民の各分野の基礎的・基本的な事項に関する知識や技能をもとに、複数の資料などを活用して解答する問題を出題し、字数制限等の条件をつけた論述問題を数問出題し、それぞれの条件に沿って文にまとめる力
数学	授業中に先生と生徒が会話をする形式の問題を出題し、対話的な学びの中で、自らの考えを表現する力。
理科	学校までの理科の学習で扱う自然の事物・現象を題材に基本的な知識や技能を問う問題をし、目的意識をもって行う観察、実験などを通して科学的に探究し、論理的に思考、表現する力
英語	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域からバランスよく出題するとともに、これらの技能を関連づけて統合的に活用する力

以下は、検査問題をもとにした、教科ごとの中学生へのアドバイスをまとめています。今後の学習の参考にしてください。高校入試で問われている内容は、普段の学習や活動そのものです。

(1) 国語

- 日常生活から話題を決め、周囲の人たちの意見を聞いたり、話し合ったりして、お互いの考えを共有してみましょう。それをきっかけとして、関連する書籍等の読書活動や他教科での学びに発展させましょう。
- 複数の資料から情報を的確に読み取り、自分の考えたことや感じたことを文章にしてまとめてみましょう。その際、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫してみましょう。
- 文章全体を通して述べられている内容や筆者の考えを、論の展開やキーワードに着目して60字や100字など指定された字数以内で要約する練習をしましょう。
- 古典を学習する際に、昔の言葉が今の自分たちが用いている言葉とどのようにつながっ

ているか考えたり、言葉と文化の関わりについて述べられた本を読んだりするなど、日常生活の中にある言葉との出会いを大切にしましょう。

(2) 社会

- 地域調査でレポートを作成する際には、図や表を使ったり地図上に表現したりすることや、要点を自分の言葉で簡潔にまとめることを大切にしましょう。
- 新聞記事等で取り上げられた日本や世界で起きている出来事や、鹿児島県の身近な出来事に興味をもちましょう。
- 社会生活に見られる様々な事例について考えたり、課題を探究したりする際に、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用するようにしましょう。

(3) 数学

- 計算する力を伸ばすとともに、目的に応じて式の計算や変形ができるようにしましょう。
- 授業では、よりよい解決方法を見いだすために、様々な考えを出し合い、議論できるようにしよう。
- 「必ずいえることをすべて選ぶ」問題に対応するために、普段の学習でも、成り立たないと判断したものは「なぜ成り立たないのか」を考え、その理由や根拠を説明できるようにしましょう。
- 日常生活や社会の事柄に対して「なぜ」と疑問を抱いたり、「このようなことがいえないか」と予想を立てたりするとともに、数学で学んだことを根拠にしながら筋道を立てて説明できるようにしましょう。

(4) 理科

- 基本的な用語は、必ず現象と照らし合わせ、その意味を理解して覚えましょう。
- 考察する際、意見交換などではあらかじめ自分で考え、その考えを根拠に基づいてまとめることを心がけましょう。また、友達などとの対話を通して、自分と異なる予想をした意見について、「なぜそう考えたのか」を常に考えるようにしてみましょう。
- 「なぜその操作をするのか」など、いつもの操作の意味を考えてから実験操作を行うようにしましょう。

(5) 英語

- 自分の気持ちや考えに近い英語の表現を教科書から選んで使ってみたり、習った語句を活用したりして、相手に話すようにしましょう。
- 日常生活の場面（家庭や学校などの身近な場面、道案内や買物など）でよく使われている表現をノートなどにまとめておき、授業中などで積極的に使って話すようにしましょう。
- 物語文は、本文中の根拠を基に場面と登場人物の心情の変化などを考えて読みましょう。
- まとまりのある文章を読んで、概要や要点を指定された語数（10語以内など）や図、表でまとめる活動をしてみましょう。
- 読んだ内容を基に、自分が登場人物の立場だったらどうするか、自分の事として捉えて、気持ちや考えを話したり、書いたりして表現するようにしましょう。

(参考) 鹿児島県教育委員会 令和2、平成31、30年度「鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要」より ※ホームページより閲覧、ダウンロードできます。